

# ■ 復興庁「自治体版ハンズオン支援事業」

## 【エントリーすべき3つのメリット】

### ポイント

## ① オーダーメイド支援！

- 有識者の招聘、ワークショップ設計支援、市民ヒアリングのアドバイスなど、取組の計画段階から実施・進捗管理まで、自治体の課題に応じて包括的にサポート。
- 年度途中での新たな支援の追加にも柔軟に対応。

### ポイント

## ② 全国の有識者ご紹介！

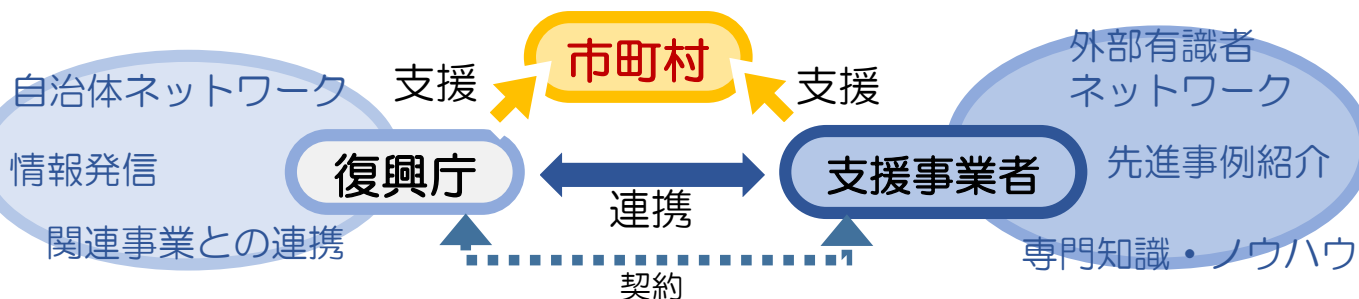
- 支援事業者と復興庁の全国ネットワークで、多様な有識者を招致。外部の知見により、取組の「壁」もブレイクスルー！
- 同様の課題を抱える自治体間での意見交換や、取組の情報発信も復興庁がサポート。

### ポイント

## ③ 自治体の手続きが簡単！

- 支援事業者と復興庁が契約。支援に要する経費は自治体で計上する必要なし。面倒な契約事務や業務管理も不要！
- 自治体と支援事業者が契約関係ではなく、対等の立場で地域課題に向き合う。同じ目線で地域の将来を考えられる関係構築！

## 【自治体版ハンズオン支援事業の仕組み】



# 【自治体版ハズオン支援事業の流れ】

## 1 支援開始前 ～エントリー前から伴走型で案件組成を支援～

- ・復興庁職員が被災自治体を訪問し、意見交換。各自治体での取組をハズオン支援事業に結びつけるべく、案件組成をサポート。
- ・同様の課題を抱える自治体への視察や意見交換をコーディネート。他の自治体職員の生の声を聞くことができる。

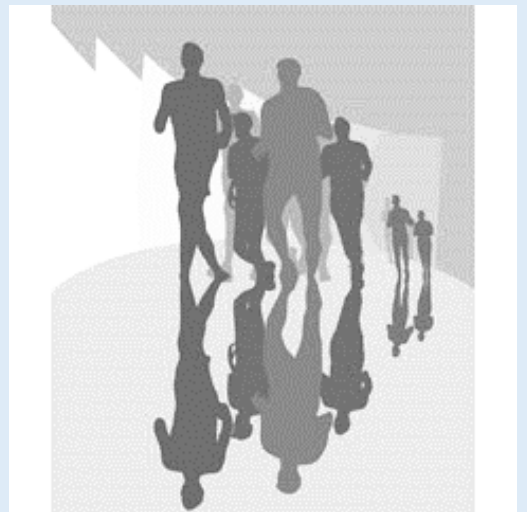
## 2 支援開始 ～課題と目標を共有し、支援項目を具体化。スタートダッシュをサポート～

- ・支援事業者と復興庁による自治体を訪問。課題や成果目標を共有。
- ・まず始めに、年間取組計画を策定。具体的な支援イメージと年度末までの達成イメージを具体化。



## 3 支援中 ～自治体・支援事業者・復興庁が三人四脚で課題解決に向けて取り組む～

- ・支援事業者は月2回を基本に自治体を訪問。進捗管理や新たな課題に対しても密な相談体制を構築。
- ・支援事業者と復興庁も常に連携し、進捗状況やノウハウを共有。
- ・復興庁が主催する交流会等での情報発信や情報交換を実施。
- ・支援終了後の自走化を見据えた体制づくりもアドバイス。



# 【具体的な取組事例】

## 事例① 「久慈地下水族科学館」を中心とした交流人口拡大事業

○実施自治体:岩手県久慈市 ○支援事業者:アクセンチュア株式会社

■目的■ 「久慈地下水族科学館(もぐらんぴあ)」リニューアルオープンを契機に市民を巻き込んだ施設や地域全体の魅力向上、観光振興を図る。



### 具体的な支援!

- ① 「キャラクターデザイン」「産品開発」「水族館魅力向上」など多様なワークショップ・勉強会開催支援
- ② 新キャラクター公募アイデア・アドバイス
- ③ 高校生への久慈市観光周知・講演会開催

- ① 実践的なワークショップを継続的に開催することで、施設や地域全体の魅力向上について自発的に考え参加する市民が増加!
- ② デザインや水族館の魅力向上に関する専門家を招聘し、キャラクター選定方法のアイデアなど、市だけでは実現できなかった施設魅力向上を実現!



### 取組の成果

## 事例② コミュニティと産業を軸とした帰還者支援プロジェクト

○実施自治体:福島県川内村 ○支援事業者:一般社団法人RCF

■目的■ 住民帰還の加速化を図るため、村内外のネットワークやファンづくりと村産品の販路開拓による産業再生を目指す。



### 具体的な支援!

- ① 村内外のネットワーク構築のため「ふる里かわうち会(川内村出身者の会)」再始動をサポート
- ② 農産加工品調査、日本百貨店協会によるアドバイス

- ① ネットワーク構築の具体的な動きを作り出したことで、今後の村の施策の重要な柱に位置付けられた!
- ② 多様な有識者による村産品販路開拓へのアドバイスにより、今後の改善点が明確化!



### 取組の成果